

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第147号 (2023.12.10-2023.12.17)

- ◆ 参加者：川合大祐、しまねこくん、古城エツ、水の眠り、佐竹紫田、さー、西脇祥貴、石川聡、輪井ゆう、元さん、おかもとも、西沢葉火、花野玖、片羽 雲雀、ウたこ、だよ、りゆうせん、雷(らい)、たろりずむ、蔭一郎、美久羅、せら、早坂ユキオ、うつわ、岡村知昭、みさきゆう、何となく短歌、小沢史、宮坂 変哲、中村マコト、温(ぬ)、落ちる星々、涼閑、汐田大輝、風ちひろ、天やん、嶋村らび、千春、菊池佳勝、池田 突波、みやしろとも、かれん、Moon、比島アルト、Billie (エミリー・ポーン)、天天雷、タリア (20)、半岬ちろ、小山あすか、ユウ、crosslover、hite、にじいろのころ、まつりべきん、丸山修平、短歌の寒薺、雪夜彗星、Kikaku、電車侍、シン・シンゴ、森内詩紋、月波互生(六一名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

暗闇が大きな声を出せる場所 かれん  
ゆどうふふふふびどうしてまよ 石川聡  
よく冷えた電池で動きだす時計 雷  
のどごしが良いねと評判の呪文 おかもともかも  
大根を洗って水も洗われる 蔭一郎  
フオロワーを全部外して大晦日 中村マコト  
みぎかわのからだの水だけがあふれ 小沢史  
許すとは昨日の夜の牡蠣フライしまねこくん  
正夢の香港に立つ美老人 川合大祐  
小雪舞うつげ義春に背鳍無し 川合大祐  
抜歯するこれから水を産むために 千春

\*

天網に物申す中島みゆき 西脇祥貴  
右手言うわたしの苦勞いつ読むの 輪井ゆう  
加速度を教えない雪 西沢葉火  
手ぶくろを買ひに羽子板市は明日 花野玖  
ゴミの中わずかに我の欠片あり 片羽雲雀  
性別を脱着式にしてほしい りゆうせん  
サイレントナイトしまうま叱る唄 岡村知昭  
大臣の引き継ぎたつた一時間 宮坂変哲  
まぶたにも母音のトゲが刺さつてる 小山あすか  
羅針盤失くしさまようラビリンス 涼閑  
昨日までの四肢が懐かしい 汐田大輝  
瓦解するバベルの塔に冬の月 天やん  
行かないでほしい背中をそっと押す 嶋村らび  
口裏を合す鮠の匂ひかな 菊池洋勝  
後ろから抱かれる安堵冬の星 池田突波  
舌で突く眠れる親不知達よ しるとも  
燃えているこの怒りの名愛なのか? Emily  
冬の部屋あなたのアレだけ暖かい ダリアNo  
夕焼けの尻尾を踏んでまた明日 小山あすか  
曇り空つま先立ちで持ち上げる うつわ  
あちこちで今夜もブルークリスマス まつりぺきん  
少年は立ち咳一つ聞こえねえ 丸山修平  
逆剥けに赤く咲き誇る曼珠沙華 雪夜替星  
死にたい時は猛烈に生きている Kilgen  
野良猫の 日向ぼこせり 漱石忌 電車侍

\*  
鍵穴は叱られそうなことをする 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

もうこんな私は今日で終わりますウイッグも羽根も置いて  
いきます みさきゆう  
取り皿をふたりに選ぶ日曜日なんとはなしに手を繋いでる  
みさきゆう

心臓とハートの場所は違うから繕いながら燃やせばいいよ  
水の眠り

朝やけの始発電車を待つオタクいつそヲタクと言ってほし  
いよ 水の眠り

遅れてる電車まっうち短編のヒロインになる夕映えのなか  
水の眠り

\*

公園のイチヨウの木から黄金をばらまく頃にエントリース  
る 古城エツ

秒針が刻む時間を聴いている ひとりの部屋はこんなに静  
か 佐竹紫円

平均を越えない数字あったかいココア混ぜても残  
る。。。 (つぶつぶ) さー

枯れ落ち葉冬の嵐に舞い上がる道の絨毯風で捲れた 元さ  
ん

頬おさえ窓際しやがみ激昂のメトロノームをひとり聞いて  
る ヴたこ だよ

自分探しの旅で自分を見つけてきた唯一の例が中田英寿  
たろりずむ

暗晦なすっきり更けた冬の夜に一杯注ぐコーンスープ  
美久羅せら

ミルク温め茶葉を揺らし一息一息 淡い夜を行く 早坂ユ  
キオ

何しても思ひ出す人きつともう見えない君と歩む人生 何  
となく短歌

速くとけよく効く薬思い出という名のきつい副作用残し

落ちる星々

イケオジに甘えたくなる午前四時師走の雨が耳に残って  
凧ちひろ

退屈に飲み込まれてくほどもなく毎日生きてただ生きてい  
る みや

思い出や温もりだつて灰となりやがて春には花が芽吹いて  
比島アルト

生き甲斐を見つけたんだよ いのち燃す作業に浸り死へ抗  
うさ 天天雷

貴方は全うな人だから、おかしな私を好きになったのでし  
よう？ 半岬ちろ

雨上がり夜のベンチに腰掛けて  
枕なら無事おしり濡れても ユウ

不自由は己の罪かそこにまだ解き放つワケ沢山あるよ  
Crazy lover

祈るけど、神や仏は信じない偽善者ぶつた君の横顔  
mine

私だけ見るわけじゃない人なんて想うばかりで枯れるばか  
りだ 短歌の寒薔薇

◆詩

如何にもな好みのひとを 見ただけで

鬼瓦ヅラが デレデレに

其れを見守る

オッサン化した妻 (温)

「びいびいと風邪つびきで書き上げた

実験レポート7本提出

涙なしでは語れニヤい」

お蔭さままでレポートも期日内に無事提出、体力も回復して参りました。

本当に有難うございます

皆様も体調にはお気を付けくださいね (Moon)

これでもか

食べても食べても

食べ足りず

体重計

あすは偽り

頼んだよ (にじいろのこころ)

◆作品評から

許すとは昨日の夜の牡蠣フライしまねこくん

〜このやさしさは、自分には詠めないです。(シン・シンゴ)

取り皿をふたりで選ぶ日曜日なんとはなしに手を繋いでる  
みさきゆう

〜このうた、すきです (森内詩紋)

冬晴や健診センター窓大き 花野玖

〜健康診断(ドック健診)のときは病気でもないのに病人のような顔をして検査を受けています。何故かいつも快晴で窓から眺める風景にもう戻れないのではないかと弱気になります。(月波与生)

ジャージ脱ぎジャージに着替えてる厚着 蔭一郎

〜88歳の父親は朝。パジャマを脱いで、脱いだパジャマを着て(着替えたつもりで)起きてきます。ボタンがちよ

つと苦手になりました。(月波与生)

マフラーを家族に加へれば二人 しまねこくん  
マフラーを首に巻かれるバイオリン しまねこくん

「マフラー」という題での2句。それなりの川柳大会に提出しても入選するだろうな、という上手さ。(月波与生)

静電気なのに不思議な顔をして 上崎

「」なのに、の「」は何を持ってきても動く言葉にはなるのだけど「静電気」は読み手がよい裏切られ方をする言葉で悪くはない。(月波与生)

資本主義なのか精巢の丸 水の眠り

「」先日引退したイクイノックスの種付け料が1千万の高額にもかかわらずあつと言う間に売り切れたそうである。提句を読んでそんなことを思いじつと手を見る歳末であった。(月波与生)

帰れない向日葵と寝たばつかりに 石畑由紀子

「」今まで「向日葵」を使った川柳をいくつか書いたが自分の場合は全句向日葵を縦に見てばかりだけこの句は横にしている。空間の捉え方にハツとしたのであった。(月波与生)

戦争の原因つくる救世主 馬勝

「」真理だなあ、と思いました。(花野玖)

燃えているこの怒りの名愛なのか? Emily

「」夜の帳が下りほとばしる、静かな情念を感じました  
素晴らしい句です(いよいよえみ)